

「せせらぎ街道」における観光景観林効果検証事業報告

平成30年3月

岐阜県林政部林政課

1 検証目的

観光道路から眺望でき景観的価値が高い森林である「観光景観林」において、地域の特色に合わせて好ましい森林景観の目標を設定し、その目標達成に必要な整備を試験的に実施し効果を検証することを目的とした。

2 目標とする森林の姿

林内の見通しがよく、優れた観光景観を有した森林



3 事業実施箇所

高山市清見町檜谷龍ヶ谷 地内 45、46、47 林班内

県有林（生活環境保全林）

水源かん養保安林、保健保安林（指定施業要件：間伐20%、植栽指定なし）

4. 施業方針

- ・「2 目標とする森林の姿」に誘導するための施業を実施した。
- ・地域森林計画の第4章「森林整備及び保全の方針」、第5章「森林整備基準等」に基づき施業を実施することとし、将来目標区分ごとの施業基準の「沿道の森林（林内景観を重視するエリア）」に事業地を設置した。
- ・地域森林計画における整備方針として、「地域の特色に合わせて好ましい森林景観の目標を設定し必要な整備を行う。」とあることから、高山市林務課及びせせらぎ街道を愛する会から、地域の意向を聴取し、それを踏まえて施業を実施した。

5. 施業方法

県営林内のせせらぎ街道沿いの森林において、不用木除去（伐採、玉切、集積）、除伐、下刈を下記のとおり実施した（別紙「試験区位置図」参照）。

工区	施工方法	延長	道路からの奥行	備考
第1工区①	不用木除去（伐採率 17%）+除伐+下刈	80m	30m	
第1工区②	不用木除去（伐採率 17%）+除伐+下刈	80m	20m	
第1工区③	不用木除去（伐採率 17%）+除伐+下刈	80m	10m	
第2工区①	不用木除去（伐採率 30%）+下刈 ※道路際 5m は皆伐を実施	40m	40m	
第2工区②	不用木除去（伐採率 30%）+下刈	40m	40m	
第3工区①	不用木除去（伐採率 33%）+除伐+下刈	100m	30m	
第3工区②	不用木除去（伐採率 33%）+除伐+下刈	100m	20m	
第3工区③	不用木除去（伐採率 33%）+除伐+下刈	100m	10m	
第4工区①	除伐+下刈	300m	10m	

6. 検証方法

施業実施後、地域住民に対し施工前後の写真を用いたアンケート調査を実施し、効果を検証した。

7. 検証結果

(1) 第1工区（広葉樹間伐エリア）

○施業内容（「不要木除去（搬出あり）」、「除伐」、「下刈り」）について

- ・約95%が「適当」と回答しており、施業効果は認められる。

○伐採率17%について

- ・約65%が「適当」と回答している一方、約32%が「伐り足りない」と回答した。

○施業奥行について。

- ・約46%が「30mで十分」と回答しているが、約22%が「20mで十分」、約27%が「適当なものはない」と回答している。
- ・「適当なものはない」と回答した場合の意見として、「現場の状況により必要量は異なる」、「地形や同一の植生を範囲とするとよい」といった意見があった。

(2) 第2工区（針葉樹強度間伐エリア）

○施業内容（「不要木除去（搬出あり）」、「下刈り」）について

- ・約95%が「適当」と回答しており、施業効果は認められる。

○伐採率30%について

- ・約76%が「適当」と回答している一方、約22%が「伐り足りない」と回答した。

○①工区の皆伐の実施について

- ・約95%が「適当」と回答しており、また、「見通しがよくなりよかった」等の意見があった。

(3) 第3工区（広葉樹強度間伐エリア）

○施業内容（「不要木除去（搬出あり）」、「除伐」、「下刈り」）について

- ・約97%が「適当」と回答しており、施業効果は認められる。

○伐採率33%について

- ・約92%が「適当」と回答しており、また、第1工区より「適当」の回答が多くなった。

○施業奥行について

- ・約57%が「30mで十分」と回答しているが、約19%が「20mで十分」、約19%が「適当なものはない」と回答している。
- ・「適当なものはない」と回答した場合の意見として、「現場の状況により必要量は異なる」、「地形や同一の植生を範囲とするとよい」といった意見があった。

(4) 第4工区（広葉樹除伐エリア）

○施業内容（「除伐」、「下刈り」）について

- ・約97%が「適当」と回答しており、施業効果は認められる。

(5) その他の意見について

- ・「本事業を継続的に実施して欲しい」という意見が4名あった。
- ・「針葉樹（スギ）の搬出は必要であるが、広葉樹は細いものが多いため集積のみでよい」という意見が2名あった。

8. 総括

本事業の実施に際し、事前に地域住民の意向を調査し施業の内容を決定したため、アンケート調査では、施業内容等について「適当」との回答を多く得られた。

施業内容の違いによる、効果は下記のとおりである。

○伐採率

強度に伐採した場合の方が「適当」との回答が多くなった。

○奥行

「30mで十分」、「20mで十分」、「10mで十分」の順に回答が多くなり、奥行きを深くした方が「十分」との回答を多く得られた。

○針葉樹工区における部分皆伐

約95%から「適当」との回答を得た。

【実施前後の写真】

○第1工区（広葉樹間伐エリア）

奥行 30m 施工前



奥行 30m 施工後



奥行 20m 施工前



奥行 20m 施工後



奥行 10m 施工前



奥行 10m 施工後



○第2工区（針葉樹強度間伐エリア）

間伐前



間伐後



道際5m皆伐前



道際5m皆伐後



○第3工区（広葉樹強度間伐エリア）

奥行30m 施工前



奥行30m 施工後





○第4工区（広葉樹除伐エリア）

